

## 高山鐵朗技術員が第 16 回震災予防協会賞を受賞

出版委員：園田保美

高山鐵朗技術職員(観測班班長)が今年定年退職と共に、第 16 回財団法人震災予防協会(東京)の協会賞を受賞することが決まり式典が 2 月 6 日に行なわれ(写真 1)南日本新聞にも 2/12 に記載されました(写真 2)。まずは、高山さん受賞おめでとうございます。防災研究所の技術室としては H6 平野さん, H10 松尾さん, H13 園田さんに続き 4 人目の受賞です。

この賞は平成 4 年度に創設され、毎年全国で 2 名の受賞者を選考しています。対象者は、長期間にわたる地道な調査研究によって地震および火山活動に起因する災害の予防軽減に多大な貢献をされたにもかかわらず、その功績が他の学会、協会等で表彰対象になりにくい場合に「震災予防協会賞」が与えられています。今回の受賞理由は「桜島火山観測所における 42 年の火山観測の遂行および日本国内外の火山観測の功績」です。

高山氏は桜島出身で、昭和 42 年 3 月に鹿児島実業高等学校電気科を卒業後、同年 4 月に京都大学桜島火山観測所に入所して以来 42 年間、一貫して同観測所に勤務され、晴れて今年 3 月末日に定年退職を迎えられます。今回の受賞は定年退職に花を添える事になりました。同観測所の先輩である、今は亡き H13 受賞の園田氏も草葉の陰で喜んでいる事でしょう。防災研究所技術職員を代表とし、誠におめでとうございます。

火山活動研究センターでは水準測量(写真 3)を得意な業務としていましたが、それに限らずあらゆる業務をこなし、観測エリアが南北 500km に及ぶ南西諸島の数多い火山島での火山観測(写真 4)、海外ではインドネシアグントール火山での地震観測点の設置などあらゆる面でバイタリティーあふれる行動派で有能な技術職員でした。また、平成 14 年からは防災研究所技術室の観測班長として、室の技術職員を取りまとめ多くの行事を執り行なってきました。

< 受賞について吉田技術室長は >

このたびは第 16 回震災予防協会賞の受賞、まことにありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。これもひとえに、長きに渡っての火山観測などに尽力された高山氏のご功績とご努力が大きく実を結ばれたものと存じております。長年コツコツとここまで続けてこられた成果ですね。私も自分のことのようにうれしく思っています。再雇用後も健康には十分留意され、さらなるご発展ご飛躍なされますよう、お祈り申し上げます。

< 又、石原防災研究所長は >

技術室観測班長高山鐵朗さんは「桜島火山観測所における 40 年にわたる火山観測の遂行および日本国内外の火山観測の功績」により 2008 年度の震災予防協会賞を受賞されました(写真 5)。同賞は、観測記録の収集・維持管理や災害記録等の系統的整理などを通して災害の予防軽減に功績のあった方々が表彰対象です。今回の受賞は防災研究所の技術職員の役割と業績が全国的な視点からも認められた証であり、ともに慶びたいと思います。

高山氏は定年退職後も再雇用職員として同観測所で引き続き火山観測業務をされる予定ですが、これからも健康に注意されて観測業務と同時に新技術職員の指導等でますますのご活躍を期待したいと思います。



写真1：横浜で行なわれた受賞記念



[ 南日本新聞エリアニュース > 社会 ]

**桜島観測携わり40年以上 高山さんに震災予防協会賞**  
京大火山センター技術者 災害の軽減に功績

(2009/02/12 07:22)



震災予防協会賞を受賞した高山鋭朗さんは鹿児島市桜島横山町の京都大学防災研究所火山活動研究センター

京都大学防災研究所火山活動研究センター（鹿児島市桜島横山町）で40年以上、桜島の観測に携わり災害の予防や軽減に功績があったとして、観測技術者の高山鋭朗さん（60）＝同市玉里団地2丁目＝が、財団法人震災予防協会（東京）の協会賞を受賞した。6日横浜市内で授賞式があり、高山さんは「長年指導してくれた先生たちのおかげ」と感謝している。

高山さんは昭和火口に近い黒神地区出身。鹿児島実業高校卒業後の1967年から同センターの前身、桜島火山観測所に勤務。実家の農作物が降灰で被害を受けることがあり、「桜島には興味というより恨みがあった」という。

技術者として地震計の設置、地震を検知すると自動的に噴火の様子を撮影する装置の開発などに尽力。自動撮影装置がとらえた写真は国内外の多くのパンフレットや学術雑誌の表紙を飾った。

長年の桜島観測で最も印象に残っているのは2006年6月の昭和火口の活動再開。休日に近くで畑仕事をしていて噴火し、第一発見者となった。

「桜島の山体は誰よりも分かる」と自負するだけに、普段と違う場所から噴煙が上がっていることに「大変なことが起きた」と直感。すぐにセンターに連絡したという。

「桜島には母が住んでいて今後どうなるか心配。できればこのまま活動が収まってほしいというのが正直な気持ち」と高山さん。3月で定年を迎えるが、再雇用でしばらくはセンターに残る。「これからも研究を支援していきたい」と話している。

写真2：南日本新聞記事とネットニュース



写真3：口永良部島での水準測量風景



写真4：高山等が開発した自動撮影装置で撮影した桜島山頂火口の噴火

## 推 薦 理 由 書

受賞候補 業績名	桜島火山観測所・火山活動研究センターにおける40年の火山観測の遂行および日本国内外の火山観測の功績
推薦理由：	
<p>京都大学防災研究所附属火山活動研究センターは、昭和30年から噴火活動が活発化した桜島火山の噴火予知の研究を行うことを目的として昭和35年に設置された同桜島火山観測所を前身とする。高山鐵朗氏は、昭和42年に技術補佐員として採用され、昭和47年には文部技官に任官した。以後40年にわたって、火山観測および施設の維持管理に従事してきた。昭和49年から火山噴火予知計画が始まったが、そのころから昭和60年代にかけて、桜島は爆発的噴火を年間200～400回も繰り返し、同氏は火山灰や噴石が降る中で、桜島島内および周辺のカルデラ地域の地震観測網の基盤的整備、また、第3・4次火山噴火予知計画によって進められた観測坑道および観測井によるデータの高品位化に尽力した。特に、常時観測点の設置については同氏の設計によるところが大きい。同氏が観測した地震記録から、山頂爆発の前兆地震活動が明らかになるとともに、地盤変動測定からはマグマの貫入・放出過程が解明され、今日の桜島火山噴火予知の基礎が確立された。また、同氏が撮影した火山爆発の写真は爆発機構の研究に寄与するところが大きい。さらに、火山噴火予知計画に基づいて遂行される集中総合観測では、地震観測、水準測量、GPS観測、重力測定など多項目の観測に参画した。近年は薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪瀬之島など薩南諸島の常時火山観測網観の設置も行い、桜島だけでなく全国の火山の集中総合観測・火山体構造探査に参加した。昭和52年の有珠山、平成2年の雲仙普賢岳の噴火活動では全国の研究者とともに現地に駆けつけている。国外でもインドネシアのグントール火山およびメラピ火山の常時観測網設置を手掛けた。平成8年に防災研究所に技術室が設置された後は、平成13年に観測班観測第三掛長、同14年には観測班長に任命され次世代の観測を任せられる人材の育成にも努力した。以上の理由により、高山鐵朗氏を震災予防協会賞に推薦したい。</p>	

写真 5：推薦理由書